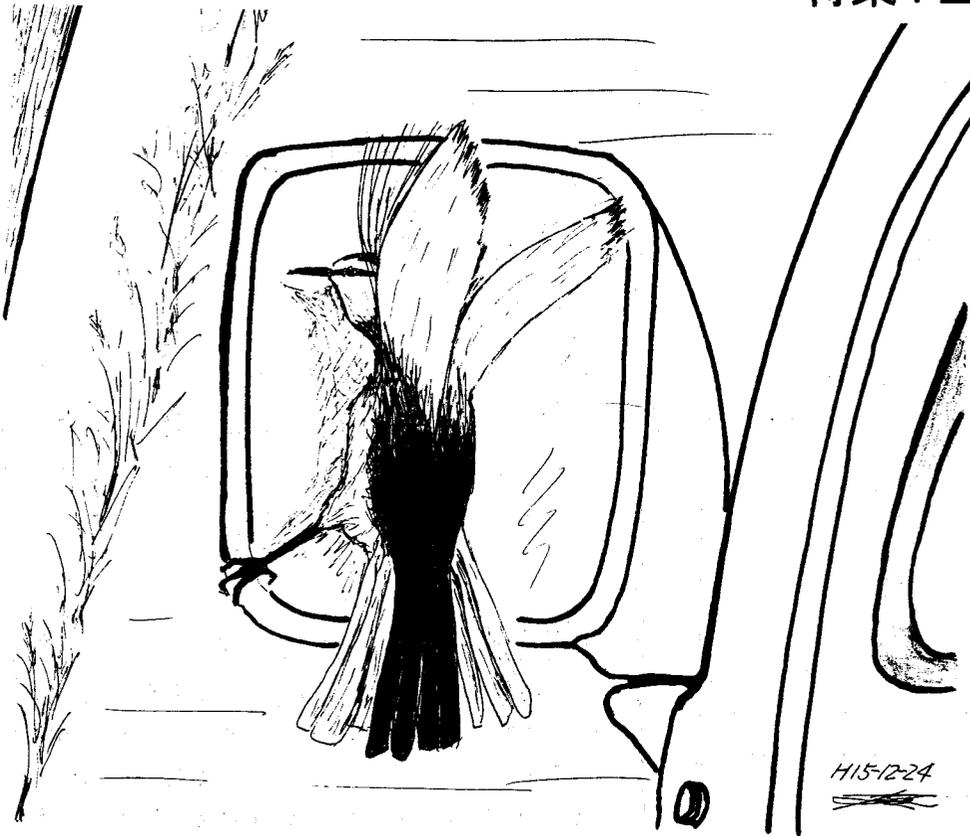


しごき

第43号

特集：三重県の海岸



2004年6月

日本野鳥の会 三重県支部



見つける喜び

平井正志 (安芸郡安濃町・理事)

20代の終わりに就職し静岡に住み、職場のK君から野鳥の観察を教えてもらった。K君は元来昆虫が専門で、野鳥には深入りしなかった。そして鳥を見るときは一人だけになった。もともとあまり人付き合いの良い方ではないし、一人の方が鳥をゆっくり見ることができる。それ以上に一緒に鳥を見る友達がなかった。富士川の河口や浮島沼は幾度となく、一人で足を運んだ。河口でコバシチドリを見つけた時も、浮島沼でコショウゲンボウを追いかけた時も、またクロトキを見つけた時も一人であった。その頃は鳥を見る人はきわめて稀で、フィールドで人に会うこともほとんどなかった。

鳥を見る。その原点は自分で鳥を見つける喜びではなからうか？期待した所に鳥がいた時、期待もしなかった場所に鳥がいた時、前者では自分の予測の正しさに満足し、後者では偶然の発見の喜びである。これはテレビを見たり、本を読んだりする、すなわち人の手によって加工された情報を楽しむのとはまた違った発見の感動がある。大きさに言えば、なんら人手にふれていない、自分だけの手付かずの自然を楽しむという贅沢である。

考えてみるとだれかに教えてもらって、それを見に行く人も昨今は多いようだ。さらにそれが拡大し、e-mailのネットワークに入り、その情報で、東へ西へと鳥を見に行く人もいる。たしかに、鳥を見る、しかも珍しい鳥を見るという点に絞ればこのやり方は効率よいであろう。しかし、この場

目次

巻頭エッセイ・表紙の言葉	2
特集：三重県の海岸	
特集にあたって	3
金剛川河口付近の野鳥たち	4
大淀海岸・東大淀海岸	6
吉崎海岸および周辺の生き物について	6
白塚海岸の紹介	7
高松海岸の現状と問題点	8
水鳥のいる渚線	10
アカウミガメから見える海岸	11
豊津浦・白塚海岸・町屋浦	12
理事紹介	16
今日も鳥日和	17
会員のページ	18
野鳥情報	22
アートギャラリー	23
鳥々図鑑	24
支部活動のページ	25
探鳥会報告	28
編集後記	30



イヌワシ

表紙の言葉

自画像と争うハクセキレイ

高 和義

重要保護地高松海岸の調査をしている時、一羽のハクセキレイが乗用車(共に調査をしていた尾畑玲子さんの所有)のフェンダーミラーに写る自分の姿につかかっていた。一回だけなら偶然であるが、このハクセキレイは何回も地上とミラーの間を往復して、同じ動作を繰り返していた。けれど学習によってミラーの中にハクセキレイがいることを意識して、縄張り争いをしていなのではないか。それともデートだったのかな？



巻頭エッセイ・特集：三重県の海岸

合どういう場所にどういふ鳥がいるかという、鳥を見るための基本的な知識はなおざりにならざるを得ない。また何を識別してその鳥を見分けたかという点もあまり頭に残らない。それでも現実に自分の双眼鏡で見て、写真にとるのだから、感動する。私はこのやり方を否定するものではなく、私自身も人に教えられて鳥を見に行く場合もある。しかし、やはり基本は自分で探し、見つけることではないであろうか？ 探す場所には効率のよい、よく知られたスポットもあれば、鳥を見る人があまり行かない自分だけの場所もある。私は自分だけの気に入った場所に固執したい。

偶然珍しい鳥を見つけた場合、それを識別するのも大変である。図鑑と首っ引きで調べる。こう

して自分で調べた鳥の特徴は案外と頭からはなれない。シギ・チドリはややこしい違いはすべて自分で調べ、自分で覚えた。したがって自分で見たこともない鳥の識別には自信がない。自分で発見すると、なぜここにこの鳥がいるのか考えるようになる。翼のある鳥のことだから、単なる偶然である場合も多いのだが、毎年定期的にそこに飛来してくるものや、誰にも知られずにそこで繁殖していたりする場合もある。それがわかれば楽しみは倍増する。そうすると他の場所で同じような場所はないか？ ひよっとするとあそこにもいるのではないか？ 次々と夢は広がっていく。やはり自分で鳥を探す、これが基本のひとつではなかろうか？

海岸特集にあたって

——我は海の子白波の騒ぐ磯辺の松原に煙たなびく苫屋こそ我がなつかしき住処なれ——
白砂青松の砂浜は日本人の原風景のひとつです。ところが高度成長の時代、全国でその砂浜が失われ、テトラポットとコンクリートの防波堤になってしまいました。著しい場合は海そのものが埋め立てられ、なくなりました。三重県下の海岸の多くもその例外ではありません。伊勢湾北部では自然海岸は高松干潟と吉崎海岸しか残存していません。中南部でも、自然海岸が残されていても堤防から波打ち際までの奥行きが狭かったりします。海岸は散歩や様々なレジャーの場として様々に利用されてきました。近年海岸の利用が多様化し、ますます盛んになり、動植物の生息をおびやかしています。

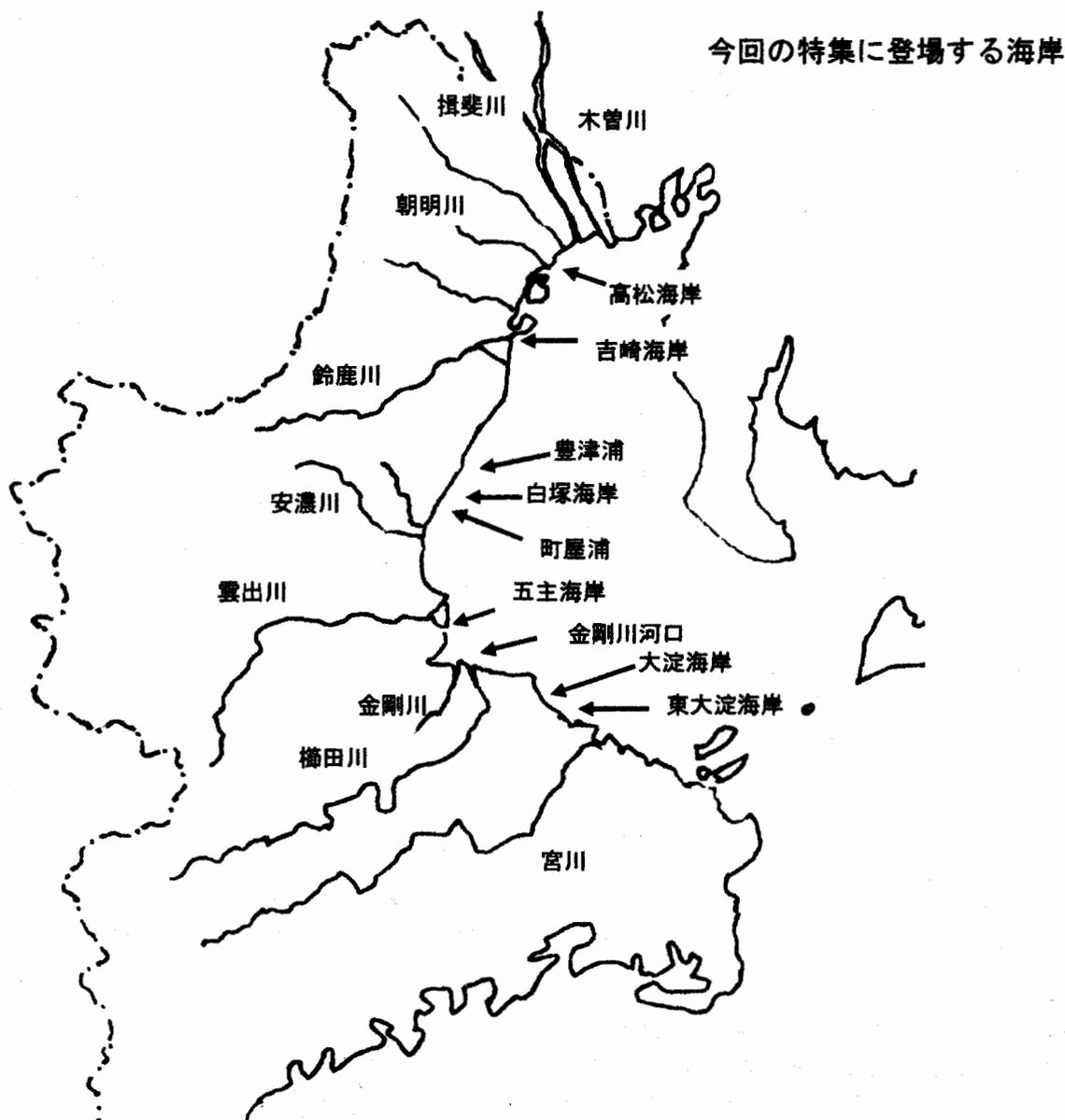
海岸は 野鳥にとっても重要な生息地です。海岸で繁殖するシロチドリ、コアジサシ、餌場と、休息に利用するシギ・チドリ類、カモメ類 離島で繁殖するオオミズナギドリ、カンムリウミスズメ、ウチヤマセンニュウ。今回の特集では現在の三重県海岸の様子をまとめてみました。支部会員から寄稿だけでなく、海の博物館 石原館長、白塚の浜を守る会の西口さん、高松干潟を守る会会長柳川平和さん及び、志摩半島野生動物研究会の

中村みつ子さん（本支部理事でもある）にも原稿を寄せていただき、それぞれの団体の考えも含めて述べていただきました。なお五主海岸については「しろちどり」40号に詳しい鳥類調査報告が掲載してありますのでご覧下さい。会員と会の活動が志摩半島以北に偏っているため、南部の熊野灘に面した磯や海岸の様子については残念ながら、情報を集めることができませんでした。

編集部



ハマエンドウ



金剛川河口付近の野鳥たち

小坂 里香 (度会郡度会町)

みなさんは、松阪港付近の航空写真をごらんになったことがあるでしょうか。それが干潮時であるなら、海にむかって一方向に川筋がいくつも流れ込み、河口に大きな干潟を形成しているのがはっきりと見て取れることでしょう。南から櫛田川、金剛川、愛宕川、阪内川、三渡川…。さらに北上すると、水系は異なりますがあの雲出川も、伊勢湾のこの一角にむかって流れ込んでいるのが

わかります。これらの川が栄養分を運び込むため、河口一帯は底生生物や魚類が豊かで、野鳥たちにとって絶好の餌場となっているのです。

大潮の干潮時には、干潟は大きく広がり、干潟から干潟へ、どこまでも歩いて移動できそうな気さえしてきます。実際、このあたりを目指して渡ってくる野鳥たちにとっては、この付近の干潟同士の距離はものの数ではありません。潮の加減、餌の状態により、こちらの干潟からあちらの干潟へ、自由自在に移動することができます。野鳥たちの餌場としての雲出川・櫛田川河口は、一体のものと言ってさしつかえないでしょう。



特集：三重県の海岸

その中で、金剛川・愛宕川の河口は、なかなかユニークな場所です。愛宕川は松阪市の市街地を流れる文字通りの都市河川であり、家庭排水の排水路のような川です。また、金剛川は、松阪市の郊外、ちとせの森付近を源流とする全長10kmほどの小河川で、こちらの中流部では水量が少なく、用水路のような状態になっています。

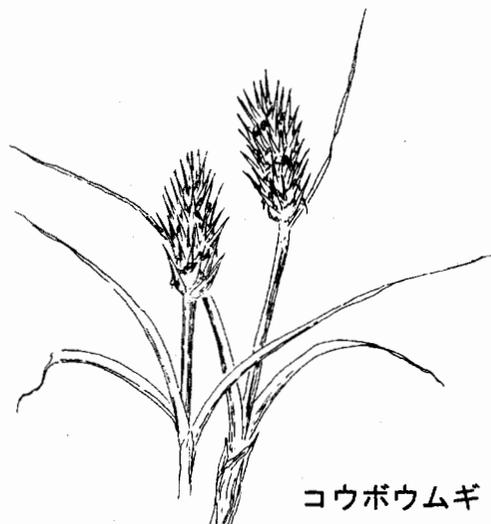
この二つの川が河口部で合流しているのですが、なぜか、この場所は野鳥たちのレストランとして人気があります。水質はお世辞にも綺麗とはいえないのですが、干潟は泥質で、家庭や田圃から流れ込む排水が栄養分となって、野鳥の餌となる生物が多く生息しているようなのです。

この干潟において、特筆すべき野鳥は、なんと言ってもズグロカモメです。近年、金剛川河口は、環境省のレッドデータでも絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されているこのカモメの、定期的な越冬地となっているのです。

ズグロカモメは繁殖地が中国の一部の地域に限られている小型のカモメで、その生息数は世界中でも7,000~9,000羽ほどと推定されています。そのうち日本に越冬のため飛来する個体は2,500羽ほどとされ、そのほとんどが九州地方に集中しています。一方、金剛川河口部における2004年2月の越冬調査(嬉野町・多田弘一氏のグループによる)では、最大48羽が確認されており、ズグロカモメの保護活動において、この付近は見過ごすことのできない重要湿地となっています。



ツルシギ(夏羽)



コウボウムギ

また、シギやチドリ類の渡りの中継地であるこの付近一帯は、当然たいへん魅力的な探鳥地でもあります。金剛川河口には陸から離れた中州があり、距離はありますが、公園として整備された堤防上から野鳥たちを脅かすことなく観察できます。チュウシャクシギ、オオソリハシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、ダイゼン、といったおなじみの顔ぶれの他、ホウロクシギなどの大型シギ、シベリアオオハシシギ、クロツラヘラサギといった珍客の飛来も楽しみのひとつです。

そのほか、冬のカモ類とそれを狙って訪れるハヤブサなどの猛禽類、留鳥のミサゴ、サギ類、越冬ハマシギやシロチドリ、カワウの大群、アシ原のオオジュリンやツリスガラなどの小鳥、といった見どころもあります。訪れるたびに、楽しい出会いと発見の喜びをあたえてくれる場所なのです。

残念なことに、現在この付近は鳥獣保護区などに指定されていないので、狩猟シーズンには鴨猟のフィールドともなっています。猟期はズグロカモメなど希少種の越冬時期とも重なり、誤射などの危険性もないとは言えません。また、ため池等後背湿地の埋め立て、マリンレジャーの流行など、生息環境悪化も進んでいます。

この一帯の湿地が、野鳥たちが安心して憩える場所としてずっと安泰であるよう、心から願っています。

特集：三重県の海岸



大淀海岸・東大淀海岸

西村 泉 (度会郡玉城町)

大淀(おいず)海岸(明和町山大淀)は三重県の南勢に位置し、笹笛川から南へ伸びる大淀漁港までの砂浜海岸です。笹笛川付近の海岸は、ハマヒルガオやハマゴウなどの海岸性植物がみられますが、大部分は海岸の幅が狭いので植物はあまり自生していません。笹笛川周辺の後背地は、かつては休耕田や養魚池があつて野鳥が生息できる好環境でしたが、今では砂利採取のため開発されてしまいました。また、キャンプ場が整備されたため、海水浴や釣りなど人の利用が高くなっています。しかし、松林や海岸性樹木が残されているのでホオジロ類など小鳥がよく見られ、海岸にはカモメ類も多数飛来します。

毎年、夏にはアカウミガメ数頭が産卵に訪れ、地元自治体が啓発看板を立てるなどして手厚く保護しています。

東大淀(ひがしおいず)海岸(伊勢市東大淀町)は、大淀漁港より東側に続く砂浜海岸で、周辺の海岸に比べて海岸の幅が広く、自然植生も残されています。例年、県の鳥シロチドリが繁殖し

ており、一時期コアジサシの繁殖も観察されました。

近年では階段護岸による堤防補強工事が途中まで行なわれています。沖には波消しブロックやテトラポットが置かれ、「養浜」と称して県外から運ばれた砂が投入されました。

また、東屋など親水公園の施設もつくられ、観光地引網を行なうなど人の立ち入りが多く、シロチドリへの影響が心配されます。



ハマダイコン

吉崎海岸および周辺の生き物について

四日市市 市川雄二

三重県の北勢部、四日市市の南部にある楠町に吉崎海岸があります。この海岸は、伊勢湾沿岸で自然海岸が残っている所としては最北部の高松海岸に次いで、北部に位置しています。ここは、鈴鹿川が河口付近で鈴鹿川磯津河口と派川河口に分かれ伊勢湾へ注いでいますが、両河口の海岸線沿いの一部にあります。南北約600m東西約80mの吉崎海岸は、漁港の奥にあり、一般の人たちにはあまり知られていません。

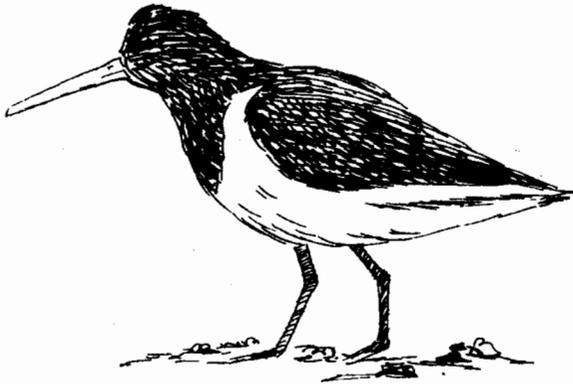
この海岸は、春秋の渡りの頃になると、渚から砂浜にかけては鈴鹿川河口とともにシギ、チドリやカモメ類の群を観察することができます。また、植物がまばらに生えた砂浜は、4月から7月

頃にかけてシロチドリやヒバリの繁殖場所になっています。シロチドリは今年3つがいが巣作りをしていますが、外敵などの影響で孵化の確率は大変少なくなっています。さらに、内陸の堤防側は低木がまばらに生え、あし原やチガヤが覆っています。オオヨシキリやセッカ、ホオジロなどの繁殖場所です。初夏の頃になると、ハマエンドウ、ハマダイコン、ハマヒルガオ、ハマゴウ、コウボウムギなどが咲き誇ります。また、毎年アカウミガメが訪れ、産卵が確かめられています。昨年は海岸堤防の内陸側に一時的に盛られた土砂の山(約高さ5m、100m*30m)にコアジサシが30羽ほど集まり繁殖行動を試みていましたが、何らかの理由で放棄していきなくなりました。

私が初めてここに訪れたのは30年ほど前になります。シロチドリの生息状況が知りたくて随分



特集：三重県の海岸



ミヤコドリ

通いました。四季折々の海浜植物に感動しました。当時はピンク色の花をつけたカワラナデシコや白くて小さな花をつけたアブラナ科のタチスズシロソウが生えていました。タチスズシロソウは、伊勢湾沿岸の極く狭い地域に生育しているが、絶滅に瀕している種だそうです。2, 3年前からもう見ることはできません。ここにはコアジサシのコロニーがありました。約100羽以上のコアジサシが密度の高いところでは4, 5mの間隔で卵を産み付けていました。その中に番(つがい)

のシロチドリが繁殖していました。シロチドリにとっては、コアジサシとともに子育てをすることは好都合なのです。コアジサシは外敵に気づくといち早く群れで威嚇し、追い払うので、シロチドリにとっては安全面で大いに助かるようです。

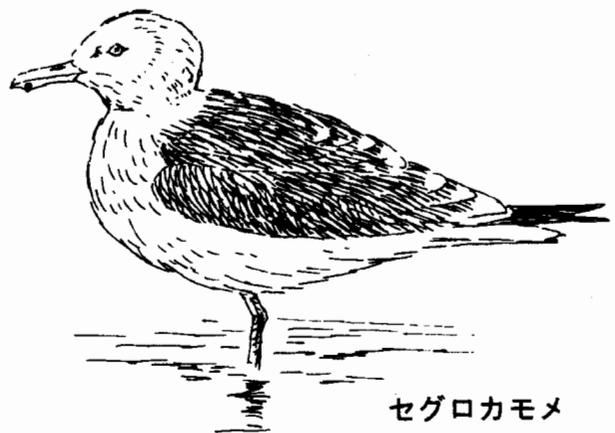
やがて、この繁殖地も次第にカラスが集まり、アオダイショウが現れました。卵をねらっている現場は見えていませんが、外敵ではないかと思っています。当時は自然の阻害要素が多かったのですが、最近では人為的な影響が現れています。十年ほど前はこの砂浜に乗り上げる四駆車もありました。海岸の砂浜には多くの流木やプラスチック製品、ビン類、かん類などが増加しました。いま、海岸堤防から砂浜に車を乗り入れないようにしたり、楠町民はこの砂浜の美化に取り組んでいます。休日になると海岸線に魚釣りを楽しむ人が増え、繁殖に悪影響を及ぼしています。

野鳥の会も、北勢ブロックのメンバーを中心に、海岸や堤防に捨てられた釣り糸の回収をしたり、シロチドリの繁殖前には繁殖地の周りにくい打ちをして、漁網を張り巡らせたり、看板を立てたりして、人の立ち入りをしないよう呼びかけてはいますが、有効な手だてがないのが現状です。

白塚海岸の紹介

白塚海岸を愛する会 西口恵子

白塚海岸の風景を一年を通して紹介したいと思います。1月、神島から上がる初日の出は海を赤く染めます。「鈴鹿おろし」の北風は冷たく吹き荒れ、砂浜は冬の眠りが続きます。3月、うす緑をした春の海になる頃、ユリカモメに混じって波打ち際を走り回るシロチドリは、益々丸くなっています。4月、渚より少し高くなった砂浜には、コウボウムギ・ハマボウフウ・ハマヒルガオの芽が砂の中からちょこっと顔を出します。ヒバリは天高く囀り、ツバメは砂浜を低空飛行、いよいよ浜辺も活動の季節になりました。5月、ハマエンドウの紫とハマヒルガオのピンクの花が浜辺を彩ります。7月、今年もウミガメのお母さんに会えますように。8月、真夏の太陽で砂浜は焼け付き素



セグロカモメ

足では歩けません。松の木陰で一休み。9月、そろそろウミガメの赤ちゃんが砂の中から湧いてきて大海原を目指します。大きくなって戻っておいで。10月、そろそろ秋風が吹く頃浜辺は静けさを取り戻します。海辺にはユリカモメなど冬鳥の姿



が見られるようになります。そして、海は透き通り一番綺麗な季節になり、浜辺は春までお休みです。

白塚海岸は、青い空と青い海その間に白い砂浜があるだけです。360度ぐるっと回ってみても視界を遮る物はありません。何もない、ただ広い砂浜がある、それだけです。東の海から上がる太陽で一日が始まり、西に連なる山々に太陽が沈んで一日が終わる。時間が太陽と共にゆっくりと流れていく、昔と変わらない風景が今もそこにある。白塚海岸の価値は、そこに人工物がないということです。

白塚海岸は、海水浴場ではありません。海に入れば必ず貝が捕れるという場所でもありません。ヨットハーバーでもありません。公園でもありません。漁港でもありません。つまり、人間が主導の海岸ではないのです。主役はあくまでも自然で

す。ほかに何もありません。しかし何かあるかわかりません。何を感じるかわかりません。開発され易い海岸線で奇跡的に残っていました白塚海岸。自然の地、何もないということの価値をもっと評価すべきです。

最後に、伊勢湾の総海岸線延長は、約145km（人口海岸線は埋め立てにより増殖中）そのうち自然海岸は4.1kmに過ぎません。そして、0.8kmが白塚海岸です。伊勢湾で最も広い自然海岸です。その海岸を破壊して、伊勢湾の自然環境を守るためという名目で、中勢沿岸流域下水道志登茂川処理区の終末処理場を造るのですか。自然を守るための物なら、自然を壊さずに造るのが当たり前です。そして、自然海岸が持つ浄化能力をもっと評価すべきです。これから、白塚海岸は一番良い季節を迎えます。ぜひ一度遊びに来てください。

高松海岸の現状と問題点

高松干潟を守ろう会 会長 柳川平和

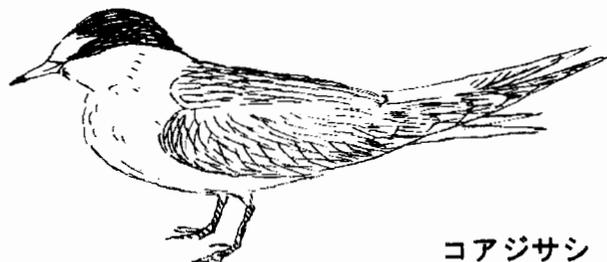
高松干潟は、三重県北勢部の四日市市と桑名市に挟まれた川越町にあります。北側には、中部電力の川越火力発電所があり、南側には霞コンビナートがあります。面積は約28ヘクタールです。

現在、この海岸の堤防に沿って霞4号幹線建設計画があります。この計画は、平成4年(1992年)四日市港管理組合により港湾計画の一つとして提案されました。当時のルートは、干潟を東沖合から縦断するというもので、総工費の見積りは約700億円でした。その後、平成10年(1998年)5月に四日市港湾審議会が開催され、総工費を削減するためのルート変更が承認されました。変更ルートは、中部電力西側の道路から南側へ干潟を横断するというものでした。このルート変更案が新聞に掲載されて、初めて私たちは干潟を通る道路計画があることを知りました。

同年7月に環境庁(現環境省)より干潟の渡り鳥に配慮するよう意見書が出され、12月には、日本野鳥の会三重県支部より

「貴重な干潟の保護のために臨港道路霞4号幹線のルート変更を求める要望書」が当時の四日市港管理組合管理者・三重県知事の北川正恭氏、四日市市長の井上哲夫氏、川越町長の山田信博氏にそれぞれ提出されました。

これを受けて港管理組合は、平成12年11月、臨港道路霞4号幹線調査検討委員会を設置しました。約3年にわたって検討され、平成15年(2003年)2月、調査検討委員会より港管理組合に優先順位をつけて3案のルートが答申されました。同年12月、四日市港湾審議会が開催され、調査検討委員会より提出されたルート案の中で優先順位が一番低かったルート案が決定されて現在に至っております。そして当初は管理組合も「これはあ



コアジサシ



特集：三重県の海岸

くまでも港湾計画のひとつに過ぎない」と言っていました。審議会で決定されたことにより早急に推進しようとしています。

私たち高松干潟を守ろう会は、平成13年4月、干潟の自然を自然のまま守ることを目的に結成されました。月二回の清掃活動を中心に、干潟へ来た人への利用者アンケート、調査検討委員会及びその各部会への傍聴出席、干潟の観察や霞4号幹線についての勉強会を開いてきました。その結果、この霞4号幹線は「いらぬ道路」だとの結論に達しました。その理由は次の通りです。

1. 国道23号線の渋滞の解消にならない。

霞四号幹線は、伊勢湾岸道路の川越インターチェンジから霞ヶ浦地区まで高架で結ばれ、国道や町道、県道からのアクセスがないため、もしその区間が渋滞していたとしても霞4号幹線に迂回することができません。また川越インターの北側から渋滞しており、霞4号幹線に迂回できたとしても霞ヶ浦地区から23号線に入っても渋滞が解消されているとは考えられない。なぜなら過去に工事や事故以外にその区間が渋滞したことはないからです。

14mバースの完成によって大型コンテナトラックの通行量が増えるとの予想ですが、名古屋方面よりのトラックは、名古屋港が港特区で開発が進められていることにより、四日市港はその補完の形にならざるを得ません。よって期待するほどトラック量が増えるとは考えられない。また北勢バイパスや富田・山城線の拡幅によって、南方面からのトラックはそれを利用するでしょうし、北部からのトラックにしても富田・山城線に迂回してもそんなに時間的ロスはないでしょう。

2. 防災上現在の道路以外にもう一本道路が必要であると指摘されていますが、現在の道路の補強と23号線へフラットでつなぐ道路を建設した方が安全度が高いと思います。

高架でつなぐ道路は地震には弱い。阪神高速道路でも何百年に一度の地震にでも耐えうるといわれていましたが、結局崩壊しました。今回も同じことが言えます。

3. 住民に新たな粉塵等により危害を与えます。

霞4号幹線が通る地区には上吉地区の住民がおり、23号線と霞4号幹線に挟まれて粉塵等のた

まり場になり、新たな公害が発生しかねないと思われま。

4. 大切な自然を破壊する。

高松干潟（海岸）は、平成9年（1997年）に環境庁（現環境省）が発行した「シギ・チドリ類渡来湿地目録」にシギ・チドリ類の重要生息地として記載されています。シギ・チドリ以外にもコアジサシ、カモ類等も渡来し、アユカケという珍しい魚もいます。（県によっては天然記念物に指定されています）また昨年の秋には、アカウミガメの産卵が確認されました。こうした生物を始め干潟には天然の浄化作用もあり、その重要性は計り知れないものがあります。特に伊勢湾は、貧酸素海域が拡大している等により干潟の希少価値が再認識されてきております。そして世界的にも干潟を保全する方向で進んでいます。

ここで道路建設が行われれば、自然の状況が一変し、干潟が破壊されていくのは目に見えています。私たちは「こんなものいらぬ」を合い言葉に住民に訴えかけていこうと活動を進めています。私たちの子供達や孫達が今日も海岸で楽しそうに貝拾をして遊んでいます。いつまでもこの楽しさを伝えられるよう、干潟の保全のために頑張っていきたいと思っています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。



ハヤブサ



水鳥のいる渚線

鳥羽・海の博物館館長
石原義剛(いしはらよしきた)

数年前、春の一日、楠町の吉崎海岸に立ち寄った時の光景。前日に海の荒れたと思えぬほど静かな日で、白く細い碎波帯が穏やかにずうっとつづいていて、その渚線を挟んで左、海上に白いユリカモメと思われる水鳥の列が、渚線の右、砂浜にはハマシギか、黒っぽい列をなしてつづいていた。なにかを盛んに突いばんでいる。わたしとの距離はほぼ100mほど。しばらく動かずに眺めていた。わずかな波で移動する渚線とともに、左右の水鳥の列も凹凸を繰り返す。その様子は、手を繋いで引いたり押し出したりした子供の頃の“花いちもんめ”の遊びを思い出させた。

ちょっと近づいてみた。海上と砂浜の2列の線はわたしの移動に合わせて少し引く。またちょっと近づくと、また引く。その距離はいつも等間隔。わあっと飛び立つでも逃げるでもない。それほど

に碎波帯にかれらの執着するものがあるのだろう。多分わたしの方に注意を向けながらも、もっと渚線が気になるのだろう。そこまで近寄ってみた。強い春の日差しに、透明な2、3センチほどの透明な生き物が微動していた。よく見ると、それは無数のヤムシだった。砂浜に上がって動かぬのは透明から白濁した死骸。昨夜の荒波か潮流で運ばれてきたのに相違ない。海上の水鳥は遊泳するヤムシを追って食い、砂浜の水鳥は跳ねるヤムシ、死んだヤムシを食っているのだ。食餌行動に寄るのか、力関係によるのか、見事、2列に分かれて水鳥群は争わず共存している。ヤムシはほとんど人に知られぬ海の動物である。毛顎動物門、ヤムシ(矢虫)綱。ふつう海草に付着して暮らし、水中では矢のように早く泳ぐというがほんとうかどうか知らない。50種類ほどあるそうだが、食用になどならず、漁師さえ知らないから、ましてや一般人は知るはずがない。わたしの見たやつは体長2~3センチ、直径1ミリくらい、爪楊枝の半分ほどの棒状。両端は細くなっているが尖らず、どっちが頭か尻か見分けがつかない。手



吉崎海岸 (筆者撮影)



特集：三重県の海岸

に取らねば、イワシのシラス(幼稚仔)と間違えるだろう。それにしても、水鳥たちはどうしてヤムシを発見したのだろうか。かれらなりの餌を見いだす不思議な能力があるのだろうか。あるいは、遺伝子に刻まれた記憶から、碎波帯が海の生命の揺籃場であり、最高の餌場なのを知っているのだろうか。伊勢湾で底引網漁の船に乗せてもらおうと、網揚げの時間を測ったようにどこからかカモメが集まってくる。捨てられる小体魚や破損魚を狙い食うためだ。生存のために身につけた逞しい能力を感じる。

いま人間にとって無関心なヤムシが水鳥たちの関心を集めている。水鳥にとってヤムシは重要な水産食料資源である。それほど大量に生息しているのなら、人間の食料になるかもしれない。ひょっとすると、ヤムシがシラス干しに代わって売り出され、人間たちが儲けることになるかもしれない。人間はいつもそうやって水鳥のものを奪って来た。そうなったら水鳥たちは、また、次の渚を探し当てることができるのだろう

アカウミガメから見える海岸

志摩半島野生動物研究会 中村みつ子

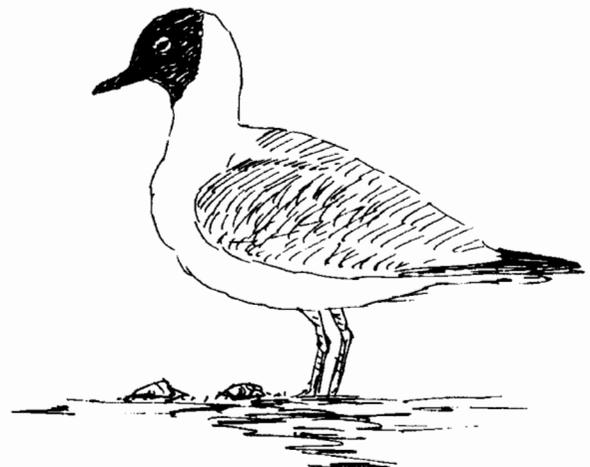
毎年5月中旬～8月下旬にかけて三重県の海岸にアカウミガメが産卵にやって来る。伊勢湾や熊野灘の各地の砂浜で産卵が確認されており、全長が80cm前後で、体重は大きいもので100kgにもなるウミガメ類で、北太平洋では唯一日本の砂浜を産卵場としている。

アカウミガメは環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に、自然のレッドデータブック・三重では希少種として扱われており、近年その個体数の減少が心配されている野生動物である。

アカウミガメの産卵場とする砂浜には、シロチドリも産卵するし、海浜植物や海浜性昆虫等も棲息しており、砂浜独自の生態系が存在している。しかし近年、人間活動の活発化に伴い砂浜の環境は急速に悪化しており、このままでは貴重な砂浜の生態系は失われてしまう可能性がある。毎年、アカウミガメの産卵シーズンになると上陸、産卵調査のため砂浜を歩くことがよくあり、調査を通じて気が付いた問題点を揚げて見る。

1. 人工海浜

日本各地で海岸の浸食が問題となっているが、三重県の海岸も例外ではなく、伊勢湾や熊野灘においても浸食による砂浜のやせ細りが様々な問題を引き起こしている。



ユリカモメ

奥行きがなくなりやせ細った砂浜では、アカウミガメの産卵があつたとしても一度台風がくれば高波によって産卵巣は流されてしまうし、冠水してしまった産卵巣の卵はふ化することができず死んでしまう。また、近年、既存の堤防の海側に人の利用を考えた階段式の護岸工事が行われ、奥行きのない砂浜はさらに狭くなってしまうと言う事態をまねいている。さらに砂の流失を防ぐ役目をしている海浜植物は工事によって失われている。このようなやせ細った砂浜を修復させるため海岸整備事業として、各地で人工の砂浜が造られてい



るが生きものに関する調査は何もされておらず、もともとそこにあった砂とは色や質の違う瀬戸内海や宍岐の砂が運ばれており、砂浜の生態系が壊されてしまう可能性がある。

伊勢市の大湊海岸においても1990年より総事業費約二十五億円をかけて人工海浜が造られている。しかし、大湊海岸の人工海浜は工事の際、近くの五十鈴川の浚渫土が砂浜に入れられているため水はげが悪くひとたび雨が降ると砂浜には水溜まりが出来てしまい運ばれた砂は海に流れだし、また天気が続くと砂浜は運動場の様になってしまう。さらに台風の高波によって砂浜はえぐられ、波打ち際に人の背丈程もある段差ができ、それをならすためショベルカーやダンプカーが砂浜に入り込み工事が繰り返されている。シロチドリの子育て期と重なったり、アカウミガメの産卵巣が踏まれそうになったり野生動物への配慮はなにもない。

大湊海岸におけるアカウミガメの産卵は毎年の様に確認されているが、運び込まれた砂は色が白っぽいいため砂の温度が上がらずふ化に影響があると考えられる。また、2002年にはふ化した100匹もの子ガメが天井の砂が硬く産卵巣から脱出できず死んでしまう事態がおきてしまった。

2. 夜間の照明

アカウミガメは本来、暗くて静かな奥行きのある砂浜を好んで産卵する。

しかしながら、整備された海岸には都会の公園の様に人間の利用のため夜間の照明が設置され、夜

でも砂浜を明るく照らしている。その様な砂浜には親ガメは産卵にはやって来ないし、もし、産卵があったとしても子ガメはフ化したとき、夜でも波打ち際の明るさをたよりに海へと帰って行くのだが、陸側に明るい照明があると海と反対側に行ってしまう海に帰れず死んでしまうことがある。

3. 車の乗り入れ

近年、マリンレジャーがブームとなり、四輪駆動車が砂浜にまで乗り込んでいる光景を目にすることがある。四輪駆動車が走り回る砂浜ではシロチドリが産卵しているかもしれないし、海浜植物が踏み荒らされたり、海浜性の昆虫は棲息場所を失ってしまう等の問題がある。

4. ゴミ

砂浜には漂着したり捨てられたりしたゴミが目に見える。それらのゴミは海岸清掃のボランティアの人たちによって片付けられているが、ところによってはプラスチックや発砲スチロールも一緒に燃やされていたり、砂浜に大きな穴を掘って埋められている光景を目にすることがある。ダイオキシンによる砂浜の環境汚染が心配される。

この様に砂浜は多くの問題を抱えている。問題の多くは私たち人間が少し気をつければ野生生物の生息環境は良くなっていくものと思われる。人と野生生物との共存を目指し、その生息環境の保護を目的とした活動が必要である。

豊津浦・白塚海岸・町屋浦

平井正志 (安芸郡安濃町)

海岸の状況とシロチドリの繁殖

河芸町田中川河口から津市安濃川河口にかけての海岸は砂浜海岸が残されており、ある程度奥行き(渚から堤防まで)があり、海浜植生も豊富です。伊勢湾岸で残された極めて貴重な自然海岸といえます。さらに田中川河口の干潟は伊勢湾では

貴重な干潟です。田中川河口に以前あった干潟はマリーナ建設により、かなりの部分が失われた。現在は河口右岸(南岸)の干潟だけが残されています。

この区域の海岸部はハマボウフウ、ハマヒルガオ、コウボウムギ、ハマダイコン、ハマエンドウなど海浜植生が全域にわたって見られ、また一部にはハマナデシコ、カワラナデシコがあります。

シロチドリはこの海岸に通年生息し、越冬期に個体数が多くなり、繁殖期には減ります。シロ



特集：三重県の海岸

チドリは砂浜に巣材を少しだけあつめ、通常3個の卵を産み、抱卵し、ヒナを孵します。抱卵は3週間ほど続き、産まれたヒナはすぐに巣を離れて、親鳥について歩き、3週間ほどで飛べるようになります。海岸を利用する人はシロチドリの抱卵に気づかないため、抱卵のじゃまをし、親鳥が抱卵を放棄することが、しばしばあります。特に5月のゴールデンウィークと抱卵の重要な時期が重なるため、多くの卵が犠牲になっていると考えられます。またヒナも危険が近づくと、座り込んで動かなくなり、危険が去ると親鳥の元に戻ります。ヒナは巧みな保護色で人に気づかれないため、かえって被害に遭うようです。

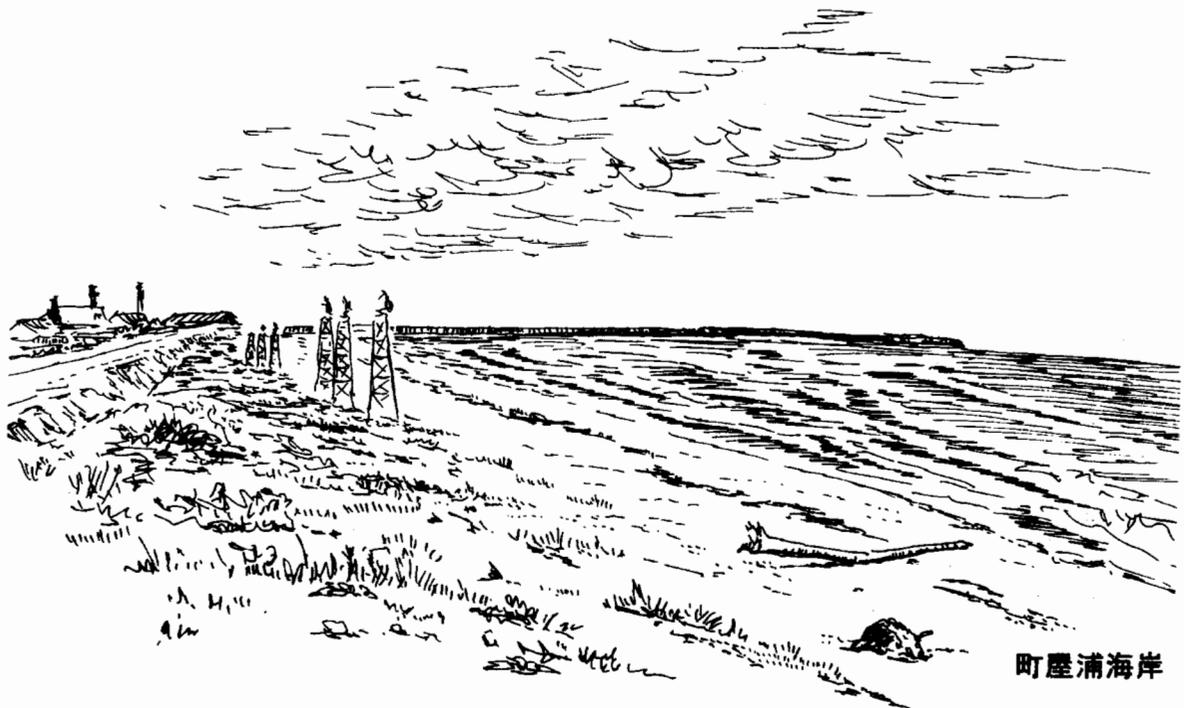
支部が本格的にシロチドリの繁殖保護、調査を行ったのは1996年からです。始めの2年間は週1回の調査を行い、かつ人が営巣場所に入らないよう、いくつかの保護柵を設けました。表1に示すように、当時はヒナが20羽前後観察されていましたが、当時でも繁殖率(生んだ卵がヒナに孵化するわりあい)はきわめて低く、問題視されていました。最近では観察されるヒナの数が一桁台に落ち、繁殖個体群の消滅が憂慮されます。

近年プレジャーボートが増え、それも海岸の砂浜に直接車を乗り入れ、テントを張り、長時間占拠して楽しむようになってきました。特に河芸

町中別保樋門あたり、三重大学キャンパス裏で多くみられます。この行為はシロチドリの繁殖にとって決定的な被害を及ぼします。また、夏のキス釣りも長時間浜辺を占拠するため問題です。海岸のすべてとは言いませんが、シロチドリの繁殖の盛んな場所を限ってリクリエーションの活動を制限するなど、行政当局の積極的な関与が求められます。また河芸町が毎年行う海岸清掃も問題です。さらに近年は植林、今年(2004年)河芸町がマツを植林した場所はこれまでシロチドリの営巣

表1 豊津浦・白塚海岸・町屋浦で観察されたシロチドリのヒナ

調査年	観察ヒナ数
1996	21
1997	22
1998	14
1999	8
2000	6
2001	3
2002	8
2003	3



町屋浦海岸

特集：三重県の海岸



表2：豊津浦・白塚海岸・町屋浦におけるシギ・チドリの調査結果

調査年	Total	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2001	2001	2001	2001	2001
調査月日		3/18	4/24	5/17	8/26	9/9	1/6	2/3	4/1	5/26	8/12	9/3
調査開始				14:00	8:10	9:10	13:30	15:00	11:20	13:00	16:30	13:05
調査終了				17:00	9:10	11:30	14:20	16:40	12:30	16:30	18:00	14:20
干潮時刻				11:30								12:20
満潮時刻				17:57								18:46
シロチドリ	973	12	10	22	15	6	10	3	7	13	72	19
メダイチドリ	22											
ダイゼン	13							2				
ケリ	62				18						2	
タゲリ	1											
キョウジョシギ	24			19		1						
トウネン	17								1		1	
ハマシギ	4444	420	576	600			364	120	624			
オバシギ	9											
ミュビシギ	1796		39		30	40		30			65	116
キアシシギ	36				2	3					11	
イソシギ	9				2	3						
ソリハシシギ	15											3
オオソリハシシギ	1											
ホウロクシギ	2					1						
チュウシャクシギ	29			8								

調査年	2001	2002	2002	2002	2002	2002	2002	2002	2002	2002	2003	2003	2003
調査月日	12/22	1/5	1/14	2/16	8/24	9/8	9/28	11/18	12/29	2/8	3/3	4/26	
調査開始	15:25	10:35	10:05	13:00	11:30	9:50	14:50	11:10	13:50	15:50	11:10	7:30	
調査終了	16:30	11:45	11:40	14:20	12:45	11:30	16:00	12:00	15:17	16:40	12:40	9:30	
干潮時刻		16:38	0:20	14:17	12:53	12:52	14:58	10:22	7:33	16:10	12:30	9:24	
満潮時刻		10:35	18:00	20:11	19:19	19:09	20:46	22:47	13:45	9:44	18:17	15:02	
シロチドリ	17	35	56	19	63	54	124	14	42	11	22	28	
メダイチドリ							4					7	
ダイゼン	1		2	2				1		2			
ケリ	3	2	4	3					8	11			
タゲリ												1	
キョウジョシギ													
トウネン							1						
ハマシギ	6	220	276	4				2	395	14	15		
オバシギ													
ミュビシギ	16	4	90		228	38	46	4	97	10	100		
キアシシギ					4	6							3
イソシギ			1								1		
ソリハシシギ					2	2	2						1
オオソリハシシギ						1							
ホウロクシギ													
チュウシャクシギ							1						7

調査年	2003	2003	2003	2003	2003	2003	2004	2004	2004	2004
調査月日	4/29	8/3	9/6	9/22	11/2	12/22	1/19	4/10	4/25	5/4
調査開始	8:30	15:00	7:37	8:08	6:15	11:25	11:15	15:12	13:45	11:40
調査終了	11:00	16:17	9:20	9:52	7:40	12:55	12:18	16:30	15:30	14:12
干潮時刻	11:04	15:17	8:37	9:18	6:17	10:59	9:58	15:10	15:03	11:38
満潮時刻	5:22	21:05	21:35	16:21	13:59	16:34	15:21	22:09	21:48	18:02
シロチドリ	23	48	65	34	28	15	42	17	19	8
メダイチドリ	5		4						2	
ダイゼン						2	1			
ケリ			2	2		5	2			
タゲリ										
キョウジョシギ									1	3
トウネン	5		7						2	
ハマシギ				1	9	298	113		107	280
オバシギ			9							
ミュビシギ		15	248	293	120	98	6		48	15
キアシシギ	2	1	3							1
イソシギ					2					
ソリハシシギ		1	4							
オオソリハシシギ										
ホウロクシギ										1
チュウシャクシギ									2	11



特集：三重県の海岸

に最も利用された場所のひとつでした。

田中川河口の干潟では後述のシギ・チドリ類以外にコサギ、ダイサギがよく見られます。またズグロカモメも観察されています(2001年2月3日、及び2001年12月から2002年1月)。この区域の海岸では春と秋の渡りの季節にはセグロカモメ、ユリカモメの大群が見られます。また海上ではウミアイサ、ホオジロガモなどカモ類が見られる。また稀にアカウミガメの産卵が観察されています。

町屋浦の南、三重大学裏の海岸は海水浴やウインドサーフィンに多くの人々が訪れます。野鳥の調査は行われていません。また安濃川河口から南の海岸は砂浜が狭く、人の出入りも多く、野鳥の観察には適していません。しかし、阿漕浦では以前にシロチドリのヒナが観察されています。

豊津浦・町屋浦のシギ・チドリ類調査結果

シギ・チドリ個体数の調査は田中川河口干潟およびそれに面した海岸、中別保樋門南側の海岸、河芸港から津市との境までの海岸、白塚海岸および町屋浦(三重大学裏を除く)をできるだけ、干潮時を選んで調査しました。調査はWWFのシギ・チドリ調査の一環として行いました。

表2は2000年から2004年5月4日までの観察結果です。

上記観察場所のうち、中別保樋門付近の海岸、河芸港から津市との境までの海岸、および白塚海岸では、ごく少数の個体が観察されるだけでした。主として田中川河口干潟と町屋浦海岸で多くのシギ・チドリ個体が観察されました。この海岸で多く見られるシギ・チドリはハマシギ、ミュビシギ、シロチドリの3種です。ハマシギは越冬するものがかなりあり、300羽以上が観察できますが、個体数が最大になるのは春です。しかし、以前のように600羽を越える大群は最近見られていません。

シロチドリはいずれの観察日でもある程度の個体数が観察されました。また、春から夏にかけてこの海岸で繁殖しています。しかし、繁殖期の個体数は多くなく、20羽から30羽くらいであろうと推定されます。繁殖が終わり8月の渡りの時期になると個体数が増え、これまでの最高で124

羽が観察されています。越冬個体も観察されますが、冬にはやや少なくなるようです。

ミュビシギは8月後半から9月の渡りの時期に最大となり、まだ夏羽を残した赤い顔をした個体が多く観察されます。ミュビシギは田中川河口干潟に入ることはほとんどなく、町屋浦などの砂浜で休息したり、波打ち際で採餌したりしています。この中にオレンジ色のフラッグを付けた個体が混じることがあり、オーストラリア南部でフラッグを付けられたものです。冬にも100羽前後の個体が越冬するようです。ただし、春の渡りでは大きな群が観察されていません。

その他のシギは数が多くありません。ケリ、ダイゼン、ソリハシシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギは田中川河口の干潟で少数が見られます。ダイゼンは越冬する場合もあるようです。チュウシャクシギは砂浜で採餌している時もあります。キョウジョシギ、オバシギ、は砂浜海岸で時々見られます。

この海岸で注目すべきはミュビシギでしょう。WWFジャパンの集計した2003年秋期の個体数では千葉県九十九里浜の3ヶ所に次いで、全国で4位の個体数、293羽を記録しました。また東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワークへの参加基準である。推定棲息個体数の1%、すなわち220羽を2002年、および2003年秋の渡りの時期に上回っています。この海岸がミュビシギにとって重要な海岸であるといえるでしょう。

引用文献

平成15年度 秋期シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報。(2004) WWFジャパン

平成6年度 シロチドリ生息状況保護対策調査報告書。三重県農林水産部林業事務局緑化推進課

理事紹介



理事紹介(南勢地区)

西村 泉さん(事務局長) 一見頼りなさげで優しい雰囲気、西村さんは、文字通り支部の要の事務局長。小学生の男の子のお母さんとしても多忙な毎日、いったいあの細腕のどこにあんなパワーがあるのか、驚かされるくらいです。正義感が強く、自然保護に対する思いは誰よりも熱く。支部の雑多な仕事や外部との折衝など、エンドレスの仕事を精力的にこなしていただいています。頑張りすぎて体をこわさないでね。

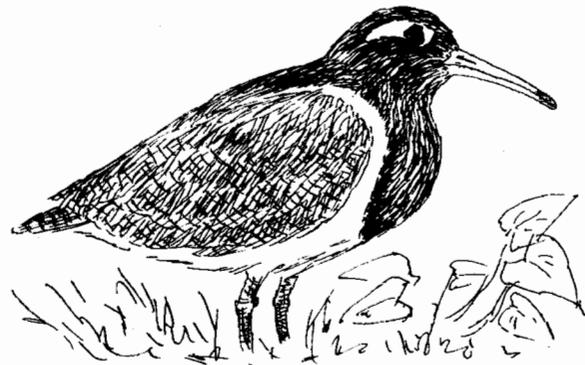
山田 昭子さん(事務局) 事務局長の補佐役としてさまざまな仕事をこなし、金銭財務担当とともに支部のがま口をしっかりとぎっておられます。頭が切れて数字にも強く、面倒見の良い支部の番頭さん。家庭菜園で野菜はほぼ完全自給という、なまけ百姓のワタクシの畑師匠でもあります。野鳥観察のときも、目の付け所の鋭さにタジタジさせられます。

中村 みつ子さん(企画部長) 南勢地区の頼りになる姉御。いつも朗らかパワー爆発、自然観察会の講師など多方面で活躍中。現在企画部長と

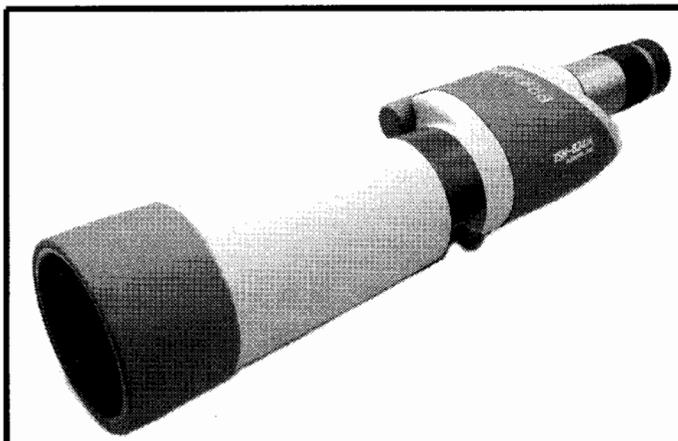
して、探鳥会の企画調整などをしていただいています。志摩半島を主なフィールドに、県内狭しと野鳥だけでなく、野生生物の調査などに奔走されています。

今村 禎さん(南勢地区長) 南勢地区の若手の今村さんも、ロマンスグレイがステキなナイスミドルとなりました。近場の探鳥会には、さっそうとマウンテンバイクで身軽に現れます。絵がお得意で、県の鳥シロチドリのかわいいキャラクター画は不朽の名作。タカ渡り探鳥会では、手作りのタカの模型などを持参していただいています。

(小坂)



タマシギ



取扱商品

フィールドスコープ
双眼鏡(小型・大型)
天体望遠鏡
カメラ(新品・中古)
その他光学製品各種

取扱メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル(株式会社アイベル)

〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119

定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00

ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc



カモ騒動

森下育代(津市)

「なにこれは！」ある日勝手口を開けると足元に大きなトリさんがあった。

あわてて足を引っ込めてよく見るとハトより大きい茶色っぽい。カモ？じっと見ているもちっとも動かないのですでに天にあそばしたトリさんらしい。実を言うと今までにもさまざまなプレゼントが置いてあった事がある。トカゲのしっぽ・カマキリ・蝶・セミ・トンボ・トカゲ本体・ネズミのしっぽ・金魚・もっと小さいトリのスズメ・モズ？

勿論家の「しまにゃん」からのプレゼントである。このネコはH14.4 に家で生まれたネコでこの子の母も狩りが上手だったので、こういうことは遺伝するらしい。その時は仕事があったのでそこに置いておいて又見に行ったらもうなかった。そういえば血は出ていなかったようだった。生返って逃げたのか？まるできつねに騙された様なことで 10月24日のことだった。家庭の事でストレスがあり息子もおねしょをしったりしてそれどころではなかった

だったのでこれは夢かと思った。

いくら安濃川と志登茂川の洲地帯に住んでいるとはいえまだ若いネコが自分と同じくらい大きなトリさんを捕って来るとは？ 大体津まつりの10月10日頃にはカモさんは来るようだ。

詳しい事は知らないが子供とガーガーちゃんを見に行くのは心なごむことだ。



シャガ

でも川にいるトリさんをネコはどうやって捕って来るのか 不思議なこと。

ところがそれは1度ではなく10月27日にもトリさんが置いてあり又見に行くと居なくなっていた。そして10月29日又してもトリさんが置いてあり今度は生きて動いていた。ネコに一応ほめてやり適当なダンボール箱にトリさんを保護した。素人目にも弱っているらしくみえた。次の日ふたを開けてみたら動かなくなっていた。遠くから飛んで来たのに家のネコが・・・と思うと何だか申し訳なかった。

さらに11月6日今度は自宅の前の道を「しまにゃん」がガーガー鳴くカモさんを前足の間からお腹の下に入れて 首根っこをくわえ走って来るのを目撃した。まさかと思っていたが本当に川からくわえて走ってくるのだ。

夕方子供達も遊びに来ていたので大騒ぎになった。びっくりしたのかカモさんを放したのでペタペタとアスファルトを逃げようとする ネコがそれに飛びつく。近所の人に来て「丁度ええ カモ鍋にしー」と言う

「そんなー」どうにかしてカモを捕まえ又しても箱に入れて家の中にいれた。

子供達が気をつかって水のいれものを入れてくれ

さあ これをどうしようか。

元気そうに見えたので次の朝志登茂川の堤防を降りて下へおろしてみた。なんだがヨタヨタして飛ぶわけでもないし水にも入らない。暫く見ていたがこれでは又捕まってしまうと思ってもう1度連れて帰った。どうしたものかと近くの獣医さんに電話をして聞いてみたら「持って来て」と言われたのでほっとした。時々ある事だそうで渡って来た初めの頃に弱っているカモ(年寄りとか病気とか)が捕まってしまうそう。これは自然の掟だからしかたない。子供にもそう説明した。色々私も大変な時期だったので その後どうしたかもう分らない。獣医さん御免なさい。暫くの間お勝手のドアを開けるともしやと思ったがその後はもうなかった。

そう言う訳でH15年10月に家の1歳半のネコが合計4羽のカモさんをつまえて来た事になる。

今にしてみれば写真など撮って調べるべきだっ



会員のページ

た。頭もくちばしも黒色で背中茶色っぽいカモさんであった。

おそらくその前年にはネコは生まれたばかりだったのでこのシーズンが初めてのカモシーズンだったのだ。ネコも動物だとしみじみ思った。「ネコの恩返し」ではないけれど「元気だせよー」とネ

コに言われているみたいでなんだか面白い出来事だった。とはいえ私達はカモさんは食べない。はたして今年はどうなる事か。

※注 ネコは獲物を獲れない飼い主を可愛そうに思ってプレゼントを持って来てくれるのです。

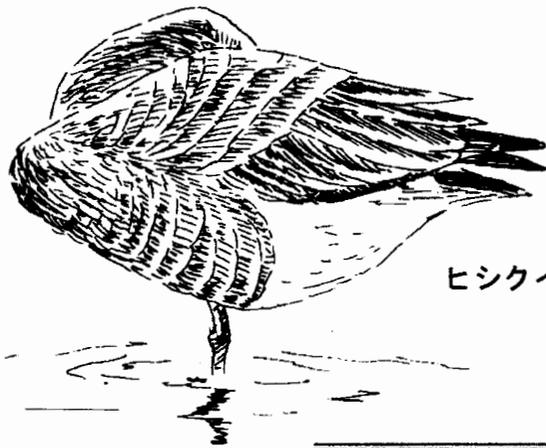


雁 風 呂

大西幸枝 (安芸郡 河芸町)

今年も桜の時期が風のように通り過ぎていきました。昔から「花を見捨てる雁(かり)」としてあげられるように、あちこちに花があふれ、明るい日ざしがふりそそぐようになるとガン・カモたちのすがたが少なくなります。

この冬は、どんより曇った寒空の下でも様々なカモたちとゆっくり楽しい時を過ごし、おおいに心がなごみ、いつになく去っていくのが寂しく感じられます。



ヒシクイ

津軽半島の外ヶ浜に語り継がれている言葉に「雁風呂(がんぶろ)」というのがあります。雁が北へ渡るころ、海岸に寄せられた流木を拾い集めて風呂を焚くという話です。

雁は海をこえ渡りをする際、途中海の上で羽を休めるために木片をくわえて渡り終えたとき海岸に落とし、春になると再び渡りをするために海岸で木片をくわえて行きます。飛び去った後に残る木片がふるさとに帰れないで死んでいった雁のものだろうとかがえたのです。

津軽の長く厳しい冬の間、ともにきびしい生活をする仲間としてもどっていけない雁を哀れに思って哀れな雁の落とし形見として拾い集め、供養するため燃やして風呂を焚くようになったのでしょう。

落語にも「雁風呂」があります。桂米朝のしか聞いておりませんがなかなか粋な話になっていますし、丸山健二の短編集にも同名の小説があります。内容には「雁風呂」という言葉も説明も出てこないのですが、「魂がぬけたように軽い枝・・・」という表現と全体から感じていただけたらと思います。

安濃川のハヤブサ

大阪支部会員 坂本真一

昨年11月8日、ミヤコドリやミユビシギに会いたくて、安濃川の河口に出かけました。安濃津橋から、右岸の堤防道を河口に向けて歩いていると、防波堤がオーバーハングになった内側に、大きな黄色い目の横顔が。「あっ、ハヤブサっ」近寄ってみても、全然飛ばないではありませんか。気のせいかな、様子が変。「まさか、怪我してる？」とどんどん近寄ると、ホッピングして右往左往し始め、肩がガラッと下がり、翼が垂れ下がっている

のが見えました。放っておくと、生きていけないのは明らかです。「野鳥の会会員として保護するしかない」と思い、故・谷本氏を通じOさんと、もう一人の女性、元ハンターの男性(以前、猟友会に居られ、野鳥の扱いに慣れてらっしゃる)の三名の方が現場に駆け付けて下さり、私とOさ



ハヤブサ



ん、もう一人の女性の三人で、Oさん持参の蚊帳を横一文字に広げ、ハヤブサに向かってジワジワ近寄ると、必死の形相で右に左にホッピングし始め、元ハンター氏が後ろからソツと近寄って、柄付網をパツと後頭部から被せました。ここぞと、蚊帳でハヤブサを包み込み、そのままダンボール

箱へ運び、捕獲成功となりました。何度か通った安濃川での忘れえぬ思い出となりました。(追伸：高橋獣医さんの手当の甲斐もなく、一週間後短い一生を終えました：編集部)
(今回大阪支部会員の方より寄稿頂きましたので、会員のページに掲載します：編集部)

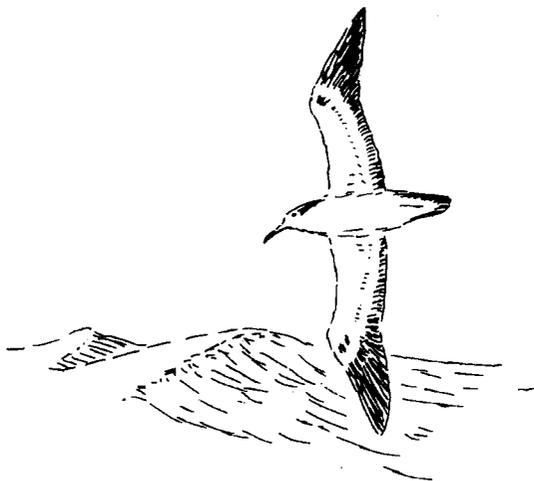


太平洋鳥見クルーズ紀行

安藤 宣朗 (四日市市)

三月末から一週間名古屋・仙台・苫小牧の太平洋沿岸クルーズとウトナイ湖・支笏湖など北海道中への探鳥に出掛けた。もちろん洋上探鳥や北海道での探鳥は初めてである。期待に胸膨らませフェリーに乗った。20時に名古屋港を出たフェリーは、翌朝、房総半島野島崎から犬吠崎を航行する、このころから、舳先にウミスズメが数羽ずつ波を縫うように白い腹をひる反えしながら飛んで行く、時々オオミズナギドリ・ウミガラス・トウゾクカモメやミツユビカモメがひらひらする。また、アシカやイルカ、それに特別出演か？シャチまで顔を見せてくれた。フェリー上では、中々鳥をキャッチするのが難しく、ましてやカメラに納めるのは至難である。犬吠崎を離れると、陸から離れ鹿島灘の外洋に出るため鳥は少なくなる。夕方、仙台に近づくにつれて、カモメ類、ウミウ等が沢山飛交う、カイツブリ類も浮かぶ。更に仙台港の防波堤が見えて来る頃、大量のカモ類に会う。日ごろ陸では見られないピロードキンクロやクロガモ、ウミアイサ等が船の進行と共に海面

から次々と飛び立つ、船上ならではのすばらしい光景である。20時に仙台港を出たフェリーは、三陸海岸・陸中海岸を経て苫小牧へと向かう。明日の朝は、いよいよ津軽海峡である、今回のクルーズの目的の一つが、この海峡を渡るハクチョウに出会う事であった。早速、朝5時過ぎにデッキへ出た。朝もやが敷き詰める海原は、まだ薄暗く水平線が円く霞んで見えた。西側には、雪を冠った山々が薄っすらと見える、多分下北半島であろう。風も無く穏やかな海であったが、船の速度と、さすがに北国寒さが身に凍みる。デッキに出ているのは我一人、自分の世界に浸り込み、しばし無心に海を眺めていた。日の出は内地より早い、5時20分ころ水平線に登る日の出を撮った。まだ津軽海峡までは時間がある一旦船内へ戻り、缶コーヒーで一服、暖をとった後、6時半頃再び甲板へ出た。朝もやは消え明かるい海原が開けていた。運行予定からすると、いよいよ津軽海峡である。30年余り前、年の瀬に青函連絡船でここを渡った事を思い出しながら、何か海鳥はいないかと、双眼鏡で全方位探鳥を繰り返していた。しばらくして左舷水平線上に何やら動く物体がレンズをかすめるハクチョウに違いない緊張しながら、その物体を追いかけた。紛れも無くハクチョウである。やがて、北東に向かう一群が大きく見えて来た。13羽のハクチョウが整然と一線に並び、ひたすら飛び続ける姿が鮮明に浮き彫りされたのである。先導する親、間に挟まれた若鳥達、夢中でファインダーに飛び込むハクチョウ達を連写連写。なんと感動した事か。大海原を渡る彼らを見ながら、自然の厳しさに耐え、力強く生き抜く姿、仲間同士の堅い絆は、お見事の一言である。今シーズン木曾川や阿武隈川で楽しませてくれたハクチョウ達も、こんな姿で北へ渡って行くんだなあ・・・と船を追いつき北帰するハクチョウ達に感動しながら見送りしたのである。また日



オオミズナギドリ



会員のページ

ごろ湖沼でよく見掛けるヒドリガモが、くの字編成で一生懸命に海峡を渡る姿も見た。還暦を過ぎた今、こんな光景に出会い自分自身の生きざまを反省させられ、ハクチョウから生き抜くパワーをもらった一瞬でもあった。更に、船は進み北

海道に近づく、前方に白く輝く樽前山、恵庭岳が見えて来る、苦小牧だ!!! 苦小牧港では、初見のシノリガモが迎えてくれた今回は、水・海鳥42種、山・野鳥39種の計81種と沢山の鳥たちと出会えた事に感謝している。

おもろいケリの習性

久住勝司 (一志郡嬉野町)

小雨降る農道を走っていると、田植えを終えたばかりの水田の真ん中50m位の所にケリが蹲っていた。何時も紳士然とした立ち姿を見ているので、不思議に思い眺めていると、すっと立ち上がり1m位離れて田の土を、くわえては嘴を左右に振りながら何回も何回もばら撒き始めた。こちらにしたら何やってんだって感じ、しばらくして元いた所をスコープで、覗いてみると、稲の古株のような巣の上に茶色に黒のまだら模様の薄汚れた感じの四個の卵が並んでいた。抱卵中だったのだ。だから巣はないよ、卵はないよと気を引かせる為のパフォーマンスだったのか。すぐ車を前進させ、振り返ると、小走りに巣に戻り何事もな

かったようにすまし顔。微笑せざるを得なかった。それにしても、畦道とか、草地の中に巣を作らず、周囲を見渡せる開けた水田の真ん中にするのは何故なんだ。「先んずれば人を制す」で、野ネズミ、蛇、カラス、猛禽類等の外敵を先に見つけようと言うのか。そうであれば外敵に対して、余程の自信がなければ出来ない芸当だ。鳥類の中でも、こんな巣造りをするのは、ケリだけらしいことを後で知った。以前、子連れケリの上空をオオタカが飛んで、ケケッ、ケケッ、ケケッとすさまじい鳴き声を、発しながら近く森の中に追い込んだ気迫といい、畦道を歩いていて、頭上すれすれに攻撃してきた気性の荒いケリの違った一面を見た思いで、また一つ不思議な鳥の世界をかいま見た気がした。

バードウォッチングと俳句

(野鳥の俳句入門) 坂口草人

大瑠璃の峽征したり村境

○ 夏の鳥

鴨類が帰り淋しくなったが、夏鳥が飛来し楽しませてくれる。暑さが厳しくなると、全く町では雀と鴉、燕ぐらいとなり、バードウォッチングも一休みである。望みは涼しい高原である。鳥も棲家は心得たもの高原の初夏は、鳥たちの囀りが私たちを癒してくれる。

白鷺の音なく降りぬ青田中

鬼瓦無言の睨み青葉々

地藏さま河鵜の糞を頭に受けて

藤前干潟河鵜の智恵か追い込み漁

山紫水明やはり翡翠翔びにけり

不如帰飛来一声記録する

葭切の無心の姿風まかせ

時鳥托卵終へて特許許可局

標高八百湿原はるか遠郭公



ノビタキ

特集：会員のページ・野鳥情報



2001年9月9日 シギ・チドリ探鳥会

奈良支部会員 中元市郎

今日のコースは、「雲出川(くもずがわ)河口で13時まで、その後、安濃川(あのがわ)河口に移動し、15時頃奈良に向かう。探鳥は自由行動。」と幹事さんから発表がありました。

10時半頃、雲出川河口に到着です。堤防の向こうには伊勢湾が、岸边には海の家が軒を連ねています。待望のシギ・チドリなのですが、なにぶん初めてのポイントなので、どこを探したらよいのか見当がつかえません。こっそりとベテランの方にくっついていくことに決めました。干潟のポールには、カワウ、砂洲には、ウミネコ、アオサギぐらいです。「あまりいないのかなー」と不安になり見渡すと、お一人が歩き始めておられます。ついて行くと早速トウネンの出迎えです。我々が近づいても逃げる様子もなく、チョコチョコと本当に可愛らしい仕草で歓迎です。角を回ると河口でした。20~30羽はいたでしょうか、シギ類が飛翔し、飛び降りるのが見えました。いますいます。ドキドキです。必死で双眼鏡、望遠鏡を覗きました。オオソリハシシギ、ソリハシシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、オバシギ、キョウジョシギ、近くの浜辺ではミユビシギとトウネン。ダイシャクシギも出たようです。望遠鏡をかわるがわるのぞいたり、「これは何ですか」の声が飛び交ったり、いつのまにか全員集合です。夏を思わせる暑さの中、必死の形相でした。

シギ・チが一段落すると、妙に後背地が気になりだしました。早めに昼食を済ませ、出発までの1時間を後背地の田んぼを見ることに決め、移動し始めました。バスのところまで戻ってくると、

すでに2名の方が歩いておられます。そしてUさん、Kさんが出発されました。急いで二人を追っかけました。アマサギ、ダイサギ、チュウサギを確認しながら、炎天下での探鳥です。「休耕田に水が入っていればねー」「こういった所で意外な面白いものが出るんですけどねー」などと言いながら、どこまで探したものと案じていると、「Oさん夫妻が動いていないから、あそこまで行きましょう」とKさんの声。暑さの中、疲れた足を引きずってお二人に近づくと「ツバメチドリですよ」、「ツバメチドリですか、何処ですか」。そのとき我々を歓迎するかのように数羽が飛び立ち「よく見てくださいよ」と言わんばかりの輪舞です。そして田んぼの中に着地。じっくり観察できました。二人にとって”お初”です。暑さも疲れも吹っ飛ばす最高のプレゼントでした。感謝! 感謝!(S,O)

(今回奈良支部会員の方より寄稿頂きましたので、会員のページに掲載します：編集部)



オオソリハシシギ

野鳥情報

研究部

種名	個体数	日時	場所1	場所2(通称)	備考、メモ	報告者
ウズラシギ	3	2004/5/4	三雲町菅原新田	ボラ池	シギ類観察中に飛来した。	久住勝司



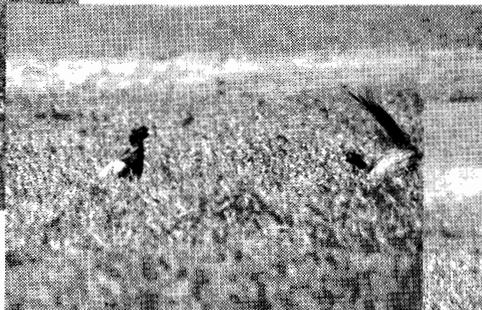
アートギャラリー

真昼の決闘

真田英春 (四日市市)



① 天気もいいし、
我が家も安泰じゃあ〜



② (そこへおじゃま鳥)
やる気かあ俺を怒らすと怖いで〜



③ やる気じゃな〜 おぬし!



④ 俺の背中どや立派やろ、
驚いたか〜



⑤ 飛びキジじゃ〜もとい
飛びケリじゃ〜



⑥ 上から 恐れ入ったか〜



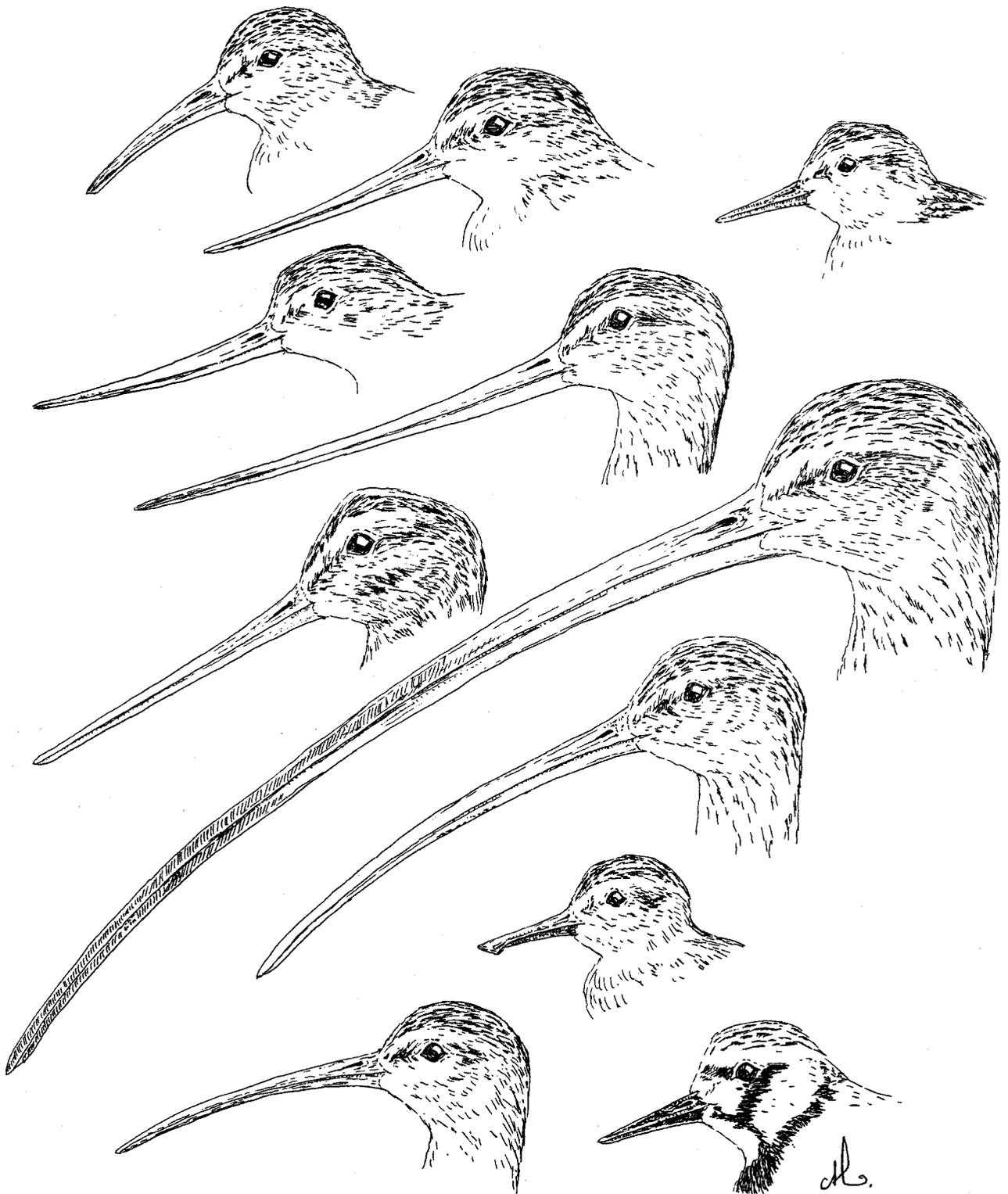
⑦ どうじゃ、まだやる気かな
おぬし〜



⑧ 参りましたあ〜



⑨ パパはやっぱり強かった (完)



左上から ハマシギ、アオアシギ、ミユビシギ、
ソリハシギ、オオソリハシギ、ハウロクシギ、
タシギ、チュウシャクシギ、ヘラシギ、
コシャクシギ、キョウジョシギ
(同一縮尺による)

平井正志



2003年度第4回理事会

日時：2003年3月14日

場所：津市雲出市民センター

出席：14名

1) 協議事項

◆事務局

- ① 谷本理事の逝去に伴い、保護部長、松阪地区長の後任について
保護部長は平井理事が当面代行 3月26日に保護部会で話し合いを予定
松阪地区地区長は松阪地区で話し合い 総会後に相談する。
- ② 支部旅費規程変更について明文化を承認
- ③ 会の名称について
「財団法人日本野鳥の会三重県支部」と名乗ってもよいと本部から許可を得ていたが、支部は財団法人を名乗ることができなくなったので「日本野鳥の会三重県支部」とすることを承認
- ④ 来年度のおもな行事予定
5月23日 三重県支部総会を開催 津市総合文化センターで 交流会も開催
9月11-12日 中部ブロック会議 浜松
- ⑤ 密猟問題シンポジウム
12月11-12日密対連シンポジウム 三重県支部が担当 南勢地区
本部へ支部事業補助金を申請する
市川副支部長が 佐賀県での密対連シンポジウムの内容を報告した。
- ⑥ ガン・カモ委託調査の協力者への調査料について
一人当たりの調査料を4000円から5000円へ
委託費が値上がりしたので、値上げしたい
調査の分担を今後考慮しなければいけない
来年度の調査に調査時間、調査の困難さなどを報告してもらう
上記を検討するため、今年度は4000円で据え置くことが承認された。
- ⑦ 今年度の収支報告、財務状況・来年度の予算
山田理事がリアルタイムで財務状況を把握
今年度の収入支出 予算通りの金額になるだろう
会員数は現在384人で平衡状態である。
39万円程度の赤字があり特別会計より補填している。
- ⑧ 三雲町五主海岸砂州除去問題
三重県よりアサリの不漁によって漁業者からの要望があり、その対策として砂州を除去するとの連絡があった。
(質問)アサリの不漁のデータ、水の出入りが悪くなったというデータおよび
水の流入がよくなるとアサリが捕れるというデータがあるのか？科学的な分析をしてから、
事業を始めてほしい。積極的に意見を述べていく必要がある。
県の担当者に保護部会に来てもらい、説明を受けるのがよいのではないか
いろいろな環境保護団体に声をかけるのもよい。



⑨ ホームページ作成

個人のホームページへのリンクは作らない
管理委員会を作る 当面は作成に関わった6名で担当する。

⑩ 他団体とのかかわり

象牙の輸入再開についての認めさせない協賛団体の署名
藤前干潟を守る会への参加について、現在無料で交換しているが、会員になってもらえないかという依頼があった
他団体への参加については今回は見送った。
他団体への参加は原則理事会で承認 緊急時は事務局長・支部長で判断する。

◆編集部： 野鳥情報の報告用紙を6月号のしろちどりに載せる

◆保護部： ○谷本部長の後任は平井が代行 ○南勢地区の保護部員増員を希望

○木曾岬干拓地の要望書を提出 2004年度も調査を継続、シンポジウム予定

○北勢地方クマタカ繁殖地問題 報告書完成 保護部会で相談

○中勢地方オオタカ繁殖地問題 調査継続中 ○高松干潟問題 懸念の声が多いので再度検討

○吉崎海岸 遊歩道整備につき提言を行なう ○河芸町海岸植林問題 県の対応に問題があり。

◆研究部：ガン・カモ調査 鳥獣保護設定基礎調査 生物多様性調査(RDB)の3つの委託事業を継続する。

◆企画部：○今年度実施事業 探鳥会・リーダー研修会・野鳥講座・交流会

○来年度実施事業 探鳥会 南勢地区の定例探鳥会(五十鈴川)

2) 報告

◆事務局

- ① 本部企画バードウォッチング案内人研修会へ2名参加
- ② 密対連シンポジウムへ副支部長が参加
- ③ 鳥獣保護区の特別保護地区設定にかかる公聴会へ4名参加
野登山 御在所岳 釈迦ヶ岳 入道ヶ岳 南島町

3) 連絡

◆事務局

- ① 三重県指定希少野生動植物種の指定案に対する意見募集について(3.17まで)
環境保護条例 指定種 カラスバト、カンムリウミスズメ ウチヤマセンニユウ
猛禽類は他の法律で保護されている
- ② 鳥インフルエンザ対策 カラスのねぐら調査など必要
- ③ バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2004へ協力要請
- ④ 全国野鳥保護のつどい5/16・山口県

(文責：西村)

研究部の活動

- 1, 鳥獣保護区基礎調査)三重県委託事業を引き続いて実施。
- 2, ガンカモ一斉調査三重県委託事業の実施
- 3, WWFのシギチドリモニタリング調査の実施
- 4, RDB関係調査の実施、特に今年は島嶼の鳥類、カラスバト、カンムリウミスズメ、ウチヤマセンニユウについて重点調査を実施

(文責：前澤)



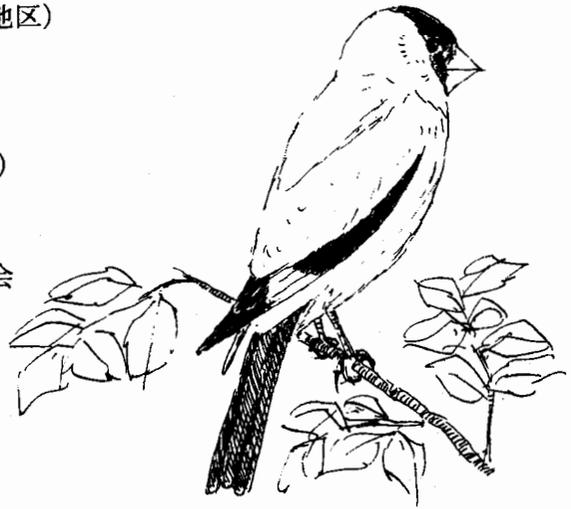
支部活動のページ

支部活動の記録

事務局まとめ

- 支部活動の記録 (2004年2月～4月)
 - 2/12 県が違法な野鳥販売店を「指導」、地区が協力 (南勢地区)
 - 2/13 海岸の植樹問題で河芸町へ出向いた (事務局)
 - 2/14-15 本部企画の「バードウォッチング案内人研修会」へ2名参加
 - 2/19 木曾岬干拓地の要望書を県へ副支部長他5名で提出した (保護部)
 - 2/21-22 「第11回野鳥密猟問題シンポジウム in 佐賀」へ副支部長参加
 - 3/2,3,4 鳥獣保護区特別保護地区の指定に係る公聴会へ支部長の代理が出席
 - 3/14 2003年度第4回理事会を開催
 - 3/17 支部報「しろちどり」第42号発行・発送作業 (編集部・事務局)
 - 3/26 事務局会議を開催した
 - 3/27 保護部会を開催した
 - 3/30 吉崎海岸整備についての要望書を提出した (保護部)
 - 4/2 いなべ市へ委託調査報告書を提出した (保護部)
 - 4/11 全国野鳥密猟対策連絡会総会へ2名出席した (事務局)
 - 4/12 高松海岸霞4号幹線について要望書を県へ提出した (保護部)
 - 4/14 鳥羽市へ密猟対策のことで出向いた (南勢地区)
 - 4/21 会員へ総会などの通知を発送した (事務局)
 - 5/4 決算の打ち合わせを行なった (事務局)
 - 5/5 有志の会員が五主の河岸清掃に協力した
 - 5/8-9 密対連のパトロールに協力した (南勢地区)
- これからの活動 (2004年5月～8月)
 - 5/14 打ち合わせ (保護部)
 - 5/15 会計監査・木曾岬干拓地について意見交換会
 - 5/23 2004年度総会・交流会を開催
 - 6/5-6 密猟シンポについて密対連との打ち合わせ
 - 6/ 支部報「しろちどり」第43号発行予定
 - 6/ 密猟パトロールを予定
 - 8/ 野鳥講座を予定

イカル



保護部の活動

谷本勢津雄部長の死去により、平井正志が2004年4月から部長をひきつぎ、村田芳雄が副部長をつとめることになりました。

活動

木曾岬干拓地でチュウヒの営巣： 本年も繁殖調査を愛知県野鳥保護連絡協議会と合同で続けている。4月17日の調査では巣材運びや餌渡しを観察され、第2名神自動車道南側で2つがいの繁殖の可能性が明らかになった。道路北側でもつがいが確認され、繁殖の可能性はある。しかし、干拓地内に無断侵入し、模型飛行機を飛ばす者がおり、繁殖を妨害していると考えられている。三重県に対応を促している。今後も調査を進める予定であると共に秋あるいは冬にシンポジウムを予定している。

カイトセーリング問題： 五主海岸では大きな凧を揚げ、その力で海上を動きまわる新種のスポーツ、カイトセーリングが盛んになり、飛来するシギ・チドリ類の採餌に圧力を加えているものと思われる。先にカイトセーリングの技術指導をしている地元運動用具店と河口内に入らないよう合意しているが、この合意だけでは不十分である可能性がある。さらに何らかの対応が必要とされよう。

(文責：平井)

しろちどり 43号

探鳥会報告



探鳥会報告

2004年1月～3月

● 員弁川探鳥会

2004年1月10日(土) 9:30-11:30

員弁郡員弁町 員弁川河畔

近藤義孝

参加者15名(内会員10名 会員外5名)
カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、チョウゲンボウ、イカルチドリ、ケリ、クサシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 28種類

比較的身近な鳥しか観察できなかつたが、初心者もいて比較的賑やかに2時間が過ぎた。三重テレビの取材があつた。

● 鈴の森探鳥会

2004年1月18日(日) 9:30-12:00

松阪市川井町 通称鈴の森公園

中村洋子・水森和子

参加者20名(内会員15名 会員外5名)
カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、トビ、バン、コチドリ、イソシギ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト

30種類

鈴の森公園では、鳥が少ないので阪内川へ行き、歩道橋からじっくり観察できました。バン、ゴイサギの幼鳥がいて、成鳥との違いがよく分かりました。

● ニツ池探鳥会

2004年1月18日(日) 9:00-11:30

伊勢市黒瀬町 通称ニツ池

山田昭子・林淳子

参加者16名(内会員13名 会員外3名)
カイツブリ、カワウ(1000羽近く)、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ(100羽)、コガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ヤマガラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

26種類

前日の雪がやみ、晴天でポカポカの日だったので、ゆっくりと観察できた。キンクロハジロが一

羽水の中で死んでいたのを引き上げたが、凧揚げ用のヒモが足と首に絡まっていた。自然界にない物を持ち込むのは人間の仕業で、責任の重さを感じてしまう。

● 木曾岬干拓地探鳥会

(共催 愛知県野鳥保護連絡協議会)

2004年1月25日(日) 9:00-12:00

三重県木曾岬干拓地・愛知県鍋田干拓地

近藤義孝 参加者20名

カイツブリ(30)、カワウ、(5000)ダイサギ(2)、アオサギ(3)、カルガモ(13)、コガモ(285)、オカヨシガモ(40)、ハシビロガモ(5)、ホシハジロ(5)、ミサゴ(3)、トビ(1)、オオタカ(1)、ノスリ(4)、ハイイロチュウヒ(1)、チュウヒ(4)、ハヤブサ(2)、チョウゲンボウ(1)、キジ(1)、ケリ(6)、タゲリ(31)、クサシギ(2)、イソシギ(3)、ユリカモメ(3)、オオセグロカモメ(3)、カモメ(1)、キジバト(40)、カワセミ(2)、ヒバリ(5)、ハクセキレイ(5)、タヒバリ(20)、ヒヨドリ(5)、モズ(3)、ジョウビタキ(3)、ツグミ(10)、セッカ(2)、ヤマガラ(1)、メジロ(3)、ホオジロ(2)、ホオアカ(2)、カシラダカ(1)、アオジ(3)、オオジュリン(10)、カワラヒワ(100)、スズメ(300)、ムクドリ(20)、コクマルガラス(3)、ハシボソガラス(200)、ハシブトガラス(230)、ドバト(100) 49種類

今回は49種。冬の鍋田・木曾岬は鳥を観察するには絶好の場所です。

● 外城田川探鳥会

2004年1月29日(木) 9:30-11:30

伊勢市上地町

西村 泉・山田昭子

参加者14名(内会員12名 会員外2名)
カイツブリ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、ノスリ、ケリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト

35種

街中を流れる川で水質も悪くゴミも少なくなかつたが、まとまった河畔林のおかげで多くの野鳥と出会えた探鳥会だった。

● 安濃川河口探鳥会

2004年2月1日(日) 9:30-12:00

津市島崎町 安濃川河口

西浦克征・久住勝司

参加者21名(内会員17名 会員外4名)



探鳥会報告

カイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、トビ、ミヤコドリ、イソシギ、ユリカモメ、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ツグミ、ハシボソガラス 25種

珍しい鳥について目が行きがちであるが、今回はカモを中心に普段良くみることの出来る鳥の生活の様子や、雌雄の違いなどを見ていただくことにも心がけ、初心者の方も興味を深めていただいたように思う。

● 五十鈴公園探鳥会

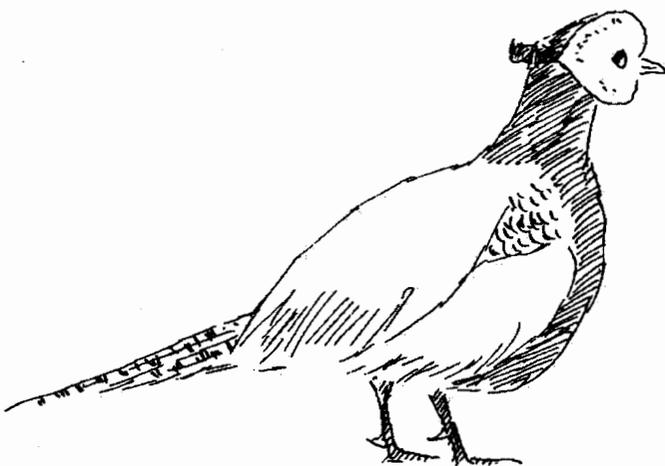
2004年2月8日(日) 9:00-12:00

伊勢市宇治浦田町 五十鈴公園

杉浦邦彦・吉居瑞穂

参加者23名(内会員18名 会員外5名)
 ダイサギ(1)、コサギ(1)、トビ(1)、ノスリ(2)、キジバト(1)、カワセミ(2)、コゲラ(1)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(4)、ヒヨドリ(3)、モズ(1)、トラツグミ(1)、シロハラ(1)、ツグミ(4)、エナガ(10)、ヤマガラ(1)、シジュウカラ(1)、メジロ(1)、ホオジロ(4)、カワラヒワ(3)、イカル(±23)、シメ(2)、スズメ(±21)、ムクドリ(1)、ハシボソガラス(9)、ハシブトガラス(2)、ドバト(±20) 29種

定例探鳥会地としてこれからも続けて欲しい。南勢地区のグループが主であったが、皆さん大勉強され、お互いに切磋琢磨され、高度な理解しやすい解説をされていた。サブリーダーの目に助けられ、リーダーは感激致した次第です。協調性があり、どなたでもリーダーとしてやっていただける。



キ ジ(オス)

● 上野公園探鳥会

2004年2月8日(日) 10:00-12:00

上野市丸の内

前澤昭彦・塗矢尋一

参加者22名(内会員17名 会員外5名)
 トビ(1)、ハイタカ(1)、キジバト(10)、コゲラ(6)、キセキレイ(2)、ハクセキレイ(2)、ビンズイ(32)、タヒバリ(2)、ヒヨドリ(30)、モズ(2)、ルリビタキ(1)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(12)、ウグイス(2)、エナガ(18)、シジュウカラ(4)、メジロ(6)、アオジ(4)、カワラヒワ(8)、シメ(2)、スズメ(8)、ハシボソガラス(4)、ハシブトガラス(2)、ドバト(12)、 24種

テーマのアオバトが出なかった。イカルの群れがどこかに行ってしまったのがおしかったがコゲラが肉眼で見える所でゆっくりと楽しんだのが良かった。

● 揖斐川探鳥会

2004年2月14日(土) 9:10-12:00

桑名郡多度町 揖斐川右岸堤防

村田芳雄・藤田克三

参加者7名(内会員7名 会員外0名)
 キンクロハジロ(12)、オオタカ(1)、ノスリ(1)、キジ(1)、ケリ(5)、タゲリ(2)、イソシギ(1)、タシギ(1)、ハクセキレイ(2)、モズ(4)、ツグミ(3)、ホオジロ(12)、アオジ(3)、オオジュリン(3)、カワラヒワ(15)、スズメ(30)、ハシボソガラス(20) 17種

ハイイロチュウヒの雄、ニュウナイスズメが前日の下見の時には見られたが、当日は見られなくて残念だった。中州があり、アシが生い茂りいい環境なので早く禁猟区にしたい。

● 宮川中流探鳥会

2004年2月20日(金) 9:45-12:00

度会郡度会町棚橋周辺

小坂里香・山田昭子

参加者19名(内会員17名 会員外2名)
 カイツブリ、カワウ、マガモ(30+)、トビ(10)、ノスリ(f1)、イカルチドリ(2+)、イソシギ(1)、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ(4)、ビンズイ(8+)、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ(5)、ヒレンジャク(1)、ジョウビタキ(1)、シロハラ、ツグミ、ウグイス(s)、メジロ、ホオジロ(s)、アオジ、イカル(1)、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 27種

ポカポカ陽気に誘われて、平日にもかかわらず、多勢の参加がありました。残念ながら冬鳥は少なめでしたが、ビンズイをじっくり観察したり、ウグイスの初音に聞きほれたり遠目ながらヒレンジャクのお出ましもあって、楽しいひとときでした。

しろちどり 43号

探鳥会報告・編集後記



● 木曾岬干拓地探鳥会

(共催 愛知県野鳥保護連絡協議会)

2004年2月22日(日) 9:00-12:00

三重県木曾岬干拓地・愛知県鍋田干拓地

近藤義孝 参加者20名

カイツブリ(3)、カワウ、(10)ダイサギ(1)、アオサギ(2)、カルガモ(11)、コガモ(200)、オカヨシガモ(76)、ホシハジロ(9)、キンクロハジロ(5)、ミサゴ(10)、トビ(3)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、ハイイロチュウヒ(1)、ハヤブサ(1)、コチョウゲンボウ(2)、キジ(2)、ケリ(30)、タゲリ(30)、クサシギ(2)、イソシギ(1)、タシギ(4)、オオセグロカモメ(1)、カモメ(1)、キジバト(50)、カワセミ(1)、ヒバリ(10)、ハクセキレイ(5)、タヒバリ(10)、ヒヨドリ(3)、モズ(3)、ジョウビタキ(2)、ツグミ(50)、メジロ(2)、ホオジロ(1)、カシラダカ(6)、オオジュリン(2)、カワラヒワ(80)、ベニマシコ(1)、スズメ(500)、ムクドリ(300)、コクマルガラス(3)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(20)、ドバト(30) 45種類

暖かい陽気で冬鳥たちも北を目指す準備をしているようだった。

● 海蔵川探鳥会

2004年2月24日(火) 10:00-12:00

四日市市西坂部町

尾畑玲子・高 和義

参加者4名(内会員3名 会員外1名)

カイツブリ(3)、カワウ(2)、アオサギ(1)、カルガモ(3)、バン(2)、ケリ(2)、イソシギ(1)、キジバト(6)、カワセミ(1)、ヒバリ(2)、キセキレイ(2)、ハクセキレイ(6)、セグロセキレイ(3)、ヒヨドリ(5)、モズ(3)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(5)、ウグイス(1)、ホオジロ(6)、アオジ(2+)、カワラヒワ(11)、スズメ(10+)、ムクドリ(12)、ハシボソガラス(2)、ハシブトガラス(1)、ドバト(13) 26種

前日の風の冷たさを忘れる好天。鈴鹿の白い山並みを眺めつつ歩いた。少人数なので、少し上流まで足をのばし、のんびりと散策できた。野山、林、畑、水辺 ささまざまな環境の鳥が来るので種類は豊富だと今日も感じた。バスの時刻変更に伴い来年度第1回(6月1日予定)から集合時刻を9時40分とします。詳しくは探鳥会案内参照。

● 石垣池探鳥会

2004年3月7日(日) 10:00-12:00

鈴鹿市西玉垣町 通称石垣池

尾畑玲子・市川美代子 参加者31名(内会員11名 会員外20名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、バン、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト 27種

市の広報に掲載していただいたので、非会員のほうが20名と多かった。11時30分頃から雪のため見えにくくなり少し残念でした。

編集後記

今年も津・一色サギのコロニーに次々サギ達集合。一番乗りのアオサギの雛が孵る頃しんがりのアマサギが登場 アオサギ・コサギ・チュウサギ・ダイサギ・ゴイサギ・アマサギと6種 夏とともに賑やかに繁殖が始まります。ダイサギの婚姻色 目先のコバルトブルーは知っていましたが、コサギの目先・足がピンクに、チュウサギの目がルビーに夫々素晴らしい婚姻色を初めて知りました。「しろちどり」津地区で担当して早1年。毎回原稿集めに苦勞しています。皆さん奮って色んなご意見・原稿・カット等ご協力お願い致します。

しろちどり 43号

2004年6月10日発行

題字： 濱田 稔

表紙絵： 高 和義

カット： 平井正志

編集：平井正志 〒514-2325

安芸郡安濃町田端上野910-49

発行所：日本野鳥の会三重県支部

杉浦邦彦方

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印刷：伊藤印刷株式会社

〒514-0027 津市大門32-13